~ present to the future ~

7月の第４日曜日は
親子の日

Official Documents
2017 Summer

Photographed on 2016

Present by 親子の日普及推進委員会(OPC)

～Present to the future～

「親子の日」は、あなたと育てる「未来への贈物」です！

年に1度、親と子がともに向かい合う日があったっていい。
その日を通じて、すべての親子の絆が強められたらすばらしい。
そんな願いが実を結び 、2003年産声を上げたのが「親子の日」です。

きっかけとなったのは、米国人写真家ブルース・オズボーン氏が
1982年に撮影した、あるパンクバンドの若者とその母親の写真。
日本社会を映し出すモチーフとして選んだ「親子」という作品は、
多くの人々に共感を与え、「親子の日」誕生へ向けての
大きなムーブメントとなりました。

そして、ユニークかつ根源的な人と人との関係を見つけたオズボーン氏は、
その後も精力的に「親子」を撮り続け、
今ではその数は6500組を超えるものとなっています。

“「親」と「子」の関係を見つめ、家族、地域、社会、
そして自然を含むすべての「環境」に敬意をはらい平和を願う”
という理念のもとに発足した親子の日普及推進委員会は、
「親子の日」を、私たちからの「未来への贈り物」として、
たくさんの人たちと一緒に育み、より多くの人たちに向けて発信する活動を続けています。

Photographed on 1982

ブルース・オズボーン　　写真家　　「親子の日」オリジネーター

1980年来日。日本での活動を開始した。以来、テレビCF、広告写真、音楽CDなど多岐にわたる分野で活躍。
長年に渡る「親子の日」普及活動への評価を得て、2016年東久邇宮文化褒賞を授与。
＜写真集、著書＞
「親子」（デルボ出版）　「Oyako」（INKS INC. BOOKS）　「KAZOKU」（角川書店）
「異人都市東京」（シンコーミュージック）「親馬鹿力」（岩崎書店）など

公式サイト　http://www.bruceosborn.com/

広がる「親子の日」イベント

たくさんの方々に支えられて
15周年を迎えた「親子の日」の活動は
年々広がりをみせています。

「親子の日」
スーパー
フォトセッション
2017

「親子の日」
親子大賞
2017

「親子の日」
エッセイコンテスト
2017

「親子の日」
写真コンテスト
2017

「親子の日」スーパーフォトセッション2017

「親子の日」普及推進活動にとって、まさにマスター・セレモニーと呼べるイベント。
毎年、無料で100組の親子をスタジオにお招きして行う撮影会は、2003年の第1回から数えて今年15回目を向かえます。
このイベントを含め、すでに6500組以上の親子の笑顔をファインダーに収めてきたことは、活動の大きな原動力となっています。

「親子の日」親子大賞2017

毎年、「今年最も輝いている親子」を、皆様からの投票で選出させて頂いてる「親子大賞」
「親子の日」の趣旨にご賛同頂き、思わぬ顔ぶれや、著名な方々の協力を頂いて楽しいイベントに育ちつつあります。

YouTube 2016年「親子大賞」授賞イベントの模様はYouTubeでご覧頂けます。「ウルトラセブン＆ウルトラマンゼロ 親子大賞授賞レポート」

「親子の日」エッセイコンテスト2017

変わらない親子関係、今だから笑える話、忘れられない思い出、また自分が親になって初めて気づいた両親の気持ちなど、
親子間のさまざまなエピソードを綴ったエッセイを募集。たくさんのキラキラ輝くエッセイが集まっています。

「反面教師」　大阪府　20歳　男性

お父さんを尊敬したことは、1度もなかった。
癇癪持ちで母を困らせ、話はつまらない、体型はだらしない。
なにひとつ見習う点などなく、むしろ、「反面教師」にしていたくらいだ。
僕はお父さんへの反抗として、誰よりも穏やかに生き、
話はできる限り面白くし、
ストイックに身体を引き締めていた。

でも、僕が大学生になって、一人暮らしをして、
周りにいろんな環境下で育って友人たちを見て、
気付いた。

僕のお父さんは、僕を誰よりも自由にしてくれていた。
僕の意思を尊重し、やりたいことはやらせてくれ、
またなにひとつ僕に強制することはなかった。

そのことを、感謝したことはなかった。
当たり前だと思って、気付かなかった。
それがどれほど難しいことだと知らずに。
自分が今、楽しく生きているのも、なんの制約も持たせずに、
お父さんが自由にさせてくれているおかげだ。

20歳となり、普段全く連絡を取らないお父さんからメールが来た。

「成人おめでとう。まるでダメな親父でごめんな。」

照れ臭いけど、返信をした。

「お父さんが、なにもかも僕に教えてくれました。ありがとう。」

＜2016年　受賞作品より＞

「ままま」　埼玉県　31歳　女性

「ままま」と、私を呼ぶ。「ま」がひとつ多い。
私を追いかけてくる。おぼつかない足取りで、よたよたと。あなたは一歳になった。
毎日よく泣き、よく笑う。よく転び、でもきちんと起き上がる。
重い頭をぐらぐらゆらしながら、私にしがみついてくる。

「ままま」お腹がすいた、とあなたは言う。
私はうなずいて、お米をラップに包んでぎゅうぎゅう握る。
あなたの大好きなふりかけを入れるのも忘れない。
おにぎりをこしらえる私の服を、あなたはぎゅうぎゅう握る。

「ままま」いただきます、とあなたは言う。
小さい手を拭いて、おにぎりを口元に持っていく。ふふふっ、とあなたは笑って思いっきりほおばる。
顔中にお米粒がついても気にしない。
食べる、食べる、食べる。時々麦茶もすする。

外はずいぶん雪が降っている。世界はお米に埋もれたように真っ白だ。
道行く人々が分厚いコートを着込んで白い息を吐く。
私とあなたは、今日はどこへも出かけない。
白い雪を見ながら、あなたを膝にのせて、おにぎりをいただく。

「ままま」お米だらけの柔らかいほっぺをくっつける。
部屋の中はとても温かい。炊きたてのご飯のいい匂いもする。
お米粒をぬぐってあげると、あなたはくすぐったそうにふふふっと笑うので、
私もつられてふふふっと笑った。

いつかあなたはその足で外の世界に出ていくのだろう。
頭もぐらぐらゆれない。しっかり前を見て、時に泣き、時に笑うのだろう。
真っ白い雪が降っても、照りつける太陽の日でも。あなたは私の手を離れ、力強く生きてゆくのだろう。

そのうち、「ま」がひとつ多いことにあなたは気づく。

「ママ」になって「お母さん」になっても、
あなたが私の服を握りしめなくなっても、
私は炊きたてのご飯でおにぎりを握ろう。
あなたの大好きなふりかけも忘れない。
優しいお米の匂いに鼻をひくひくさせるあなたを見て、
一緒にふふふっと笑いながら。

＜2016年　受賞作品より＞

「親子の日」フォトコンテスト2017

オリンパス株式会社様のご協力で、オンライン写真共有サービスに特設写真コンテスト会場を開設。
毎年、素敵な「親子の肖像」が送られてきています。

＜2016年受賞作品より＞

<トピックス>　映画「OYAKO」について

2013年には、活動誕生10周年を記念し、映画「OYAKO」を製作いたしました。
「親子の日」の考えに賛同頂いた著名人の方々のインタビューや、
東日本大震災直後の被災地でのオズボーン氏の活動など、
これまでの「親子の日」の軌跡や想いがいっぱいつまっています。

＜出演＞　BRUCE OSBORN　仲野 茂　大林宣彦　三浦豪太　コシノジュンコ　広河隆一　鳥越俊太郎
PETER BARAKAN　元木行哉　佐々木裕美　佐々木凱　CHRIS PEPPLER（ナレーション） 他
＜監督＞　イノマタトシ

OYAKO
-present to the future-

映画「OYAKO」公式サイト　http://oyakomovie.com

「親子の日」をサポートしてくださるパートナー（協賛・協力）

オリンパス株式会社様

「親子の日」創設２年目からご参加頂き、今年で１４年。
写真コンテストや東京・大阪での「親子の日」写真展の開催など
長年に渡りサポート頂いています。

さらに「親子の日」当日に行われるスーパーフォトセッションへの
ボランティアとしての参加は、イベント運営の大きな力となっています。

オーティコン補聴器様

「親子の日」スーパーフォトセッションを、全国の販売代理店を通じて
告知して頂き、毎年５組の親子をイベント前日から撮影の行われる東京に
ご招待する「みみとも親子ツアー」キャンペーンを実施頂いています。

また「沖縄の親子」撮影会や沖縄県立博物館・美術館での写真展などを
成功に導いてくださいました。

株式会社毎日新聞社様

毎日新聞

特別協力として応援頂いている毎日新聞社様には、
「親子インタビュー」の記事を定期的に紙面展開して頂くことで、
読者のみなさんに「親子の日」を広く伝えて頂いています。

そして、ご出演頂いた親子によって語られる貴重なストーリーは、
読者のみなさんに大きな共感を生み出しています。

株式会社TSUTAYA様

TSUTAYA

応援2年目となる今年は、TSUTAYA様の全国の対象店舗にて
「親子が本を通してつながる1日
～親から子へ“伝えたい”を本で贈ろう～」
と題したキャンペーンを展開して頂くことになりました。
「親子の日」特製のブックカバーとメッセージしおりのプレゼントと
スーパーフォトセッションへのご招待を企画して頂いています。

また一つ、大きな力で支えられ、「親子の日」が多くの方々に
愛される日へと育っていくことに期待が高まります。

株式会社花王様

日本写真館協会様

株式会社キタムラ スタジオマリオ様

山口県 下松市様（行政機関）

Road to 2020

親子の日普及推進委員会は、2020年の「親子の日」を
大きなステップの年として捉えて活動を進めています。

2020年の「親子の日」は、
東京オリンピックが開幕から3日目となります。
まさに東京オリンピックの真っ只中。

そこで、すでに撮影数が **6500組 を越えている**

「日本人の親子」

の肖像を通して、
国内だけでなく世界の人々へと
「親子の日」が提唱する温かい想いを伝えたい。

その道のりこそが、親子の日普及推進委員会にとっての

Road to 2020 なのです。

~ present to the future ~

7月の第4日曜日は 親子の日

「親子の日」公式サイト　http://oyako.org

親子の日普及推進委員会（ＯＰＣ）は、
これからも多くの方々と手を携えながら、
7月第4日曜日は「親子の日」を
お伝えして参ります。
どうぞご支援、ご賛同賜りますよう
今後とも宜しくお願い申し上げます。

「親子の日」に関するお問合せ

press@oyako.org

親子の日普及推進委員会（2017年7月現在）　**Oyako day Planning Committee**

ブルース・オズボーン
井上佳子　猪股敏郎　上田壮一　梶原美紀　木村晋介　桜井武司　佐藤 仁　関智　田所 茂　田中勇樹　手塚俊平　平田麻子　松浦 有　宮崎光弘　（50音順）